

あ い さ つ

東山梨教育協議会会長 雨 宮 貴

今年も東山梨教育協議会の研究成果を収録した「東山梨教育研究」第54号の発刊を迎えました。この研究集録は、昭和38年に第1号を発行して以来、東山梨地区教育の研究成果を記録してきたものです。東山梨の教育研究は、子供たちのよりよい成長・たくましい成長のために、教育3者が一体となって組織的に取り組んできたものであることは言うまでもありません。その教育研究は、半世紀を超える社会の変遷に伴う教育の変化を確実に捉え、一歩ずつ進んできました。本年度も、その輝かしい歩みの1ページとして研究を集録することとなりました。

さて、我が国では、少子高齢化・グローバル化・技術革新の激しい高度情報化などが複雑に絡み合いながら、かつてないほどの社会変化が加速度的に進行しています。これからの時代は先を見通すことがますます困難になり、変化の波は私たちの生活に大きな影響を及ぼすと思われまます。激しく変化する時代を生き抜く子供たちには、自ら気づき、自ら考え、自ら学び、自ら解決していく、豊かな資質・能力がより一層求められることとなります。平成27年8月26日に中央教育審議会教育課程企画特別部会から出された論点整理では、2030年以降の社会を見据え、子供たちが社会や世界とつながり、よりよい社会と自らの人生を積極的に創り出していける力を育成しようと「社会に開かれた教育課程」を提唱しています。そこでは、学校が社会や世界との接点を広げ多様なつながりを重視し、全体を見通した体系的な教育課程の編成と実施をすることの重要性が挙げられています。

ところで、教育は、人格の完成と平和で民主的な社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を図るために行われます。しかしながら社会のよき形成者を育て、一人一人の個人が自己実現を図るために行われる教育は、学校だけで行うには無理があります。これからの加速度的に変化が大きくなる社会にあっては、学校・家庭・地域が教育におけるそれぞれの持ち場をしっかりと守り役割と責任を果たすとともに、学校・家庭・地域が連携をより深め協働して取り組むことが、重要になります。それには、教師は、社会の動静に今にも増して敏感になるとともに、本分である授業力を高めるための研究と修養に一層努めることが求められています。今、話題になっているアクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネジメント等に対しても、技術の習得だけに陥ることなく、導入する背景や基となる考え方をしっかりと捉え、これからの学校現場での取り組みについて真摯に研究を積み重ねることが期待されていると思います。

『常に大きく変化する社会の中で、子供にどのような力を付けるか』という難しい課題に対して、東山梨地区でこれまで多くの先輩方が積み上げてこられた貴重な研究・実践の英知を生かすとともに、教師自身が一層の研鑽を積み、教育研究における横の繋がりを強める中で取り組むことが大切と考えます。この研究誌が、社会や世界に向き合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質や能力を東山梨の子供一人一人に育てていくための財産となるものと確信しています。終わりに、本年度も東山梨教育協議会の様々な研究活動に対し、御指導・御支援をいただきました関係者の皆様に、心よりお礼を申し上げ、あいさつとさせていただきます。ありがとうございました。